

エコラベルと国際貿易

田場 弓子

早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程

August 24, 2006

セッション：国際貿易（貿易の自由化と環境問題）

概要

本稿では、エコラベルのラベル付け費用と遺伝子組み換え食品に対する国毎に異なる許容度が国際貿易にどのような影響を与えるのかを完全競争、完全情報下でリカードモデルを用いて分析する。エコラベルの役割は、遺伝子組み換え食品輸入国消費者に財の情報を与え、市場の失敗を補正することである。このような情報の非対称性の問題を扱った先行研究は多くある。しかしながら、遺伝子組み換え食品生産企業はエコラベルを義務付けられることにより、追加的にラベル費用を支払わなければならない。このラベル費用は、検査費用も含むため、ある程度大きくなり、遺伝子組み換え食品輸出国にとっては貿易障壁になると考えられている。つまり、追加的なラベル費用は、市場にゆがみを与えるのである。さらに、各国で異なる遺伝子組み換え食品の許容度も貿易パターンに影響を与える。これまでの研究では、ラベル付け費用、消費者の遺伝子組み換え食品許容度が及ぼす影響についての分析は見落とされている。

本稿から導かれる主な結論は、ラベル費用によって遺伝子組み換え食品輸出国は、厚生を改善することが出来る可能性があること、各国の遺伝子組み換え食品許容度の違いによって貿易パターンが変化することである。

キーワード エコラベル ラベル費用 遺伝子組み換え食品

JEL Classification number F18